

マリナ森山緑

(1908-1945)



緑は1908年10月8日に生まれます。彼女は一人娘で、教師になり、家から遠く離れて働きます。両親が永井隆というこれまで知らなかった医学生を下宿させることを決めると、彼女はすぐに家族と一緒にこの医学生がキリストに出会うことができるようにと祈り始めます。緑は、1932年のクリスマスイブに、隆が自分の両親から夕食に招待され、ミサに出席するように誘われたときに彼と出会います。これは彼にとって最初の主の存在との衝撃的な出会いです。翌日、緑は、若い隆の時宜にかなった手術のおかげで、腹膜炎による死から救われました。このようにして、生と死の意味について思案している若い隆のそばで彼女は控えめに存在し始めます。緑の愛情深いきよらかな姿、彼が戦争から無事に戻れるように、キリストを知ることができるようにと毎日聖母に祈る姿は深く心を打ちます。彼女は教練部隊にいる彼に公教要理を送ります、そして何よりも彼女は自分の感情を犠牲にする準備があります。事実、隆が戦争から無事に帰って回心の歩みを始めると、自分が彼にふさわしいとは思わない緑は、自分の役目が終わったと考え、聖母マリアに助けを求めてはいと言えるように、神に感謝のうちに彼に対する自分の気持ちを捧げます。

しかし、1934年、パウロの霊名を受ける隆の洗礼の後、司祭はこの二人を結婚させようと考えますが、この時も緑は、聖書のルツ記の言葉で答え、隆が自分の放射線科医であることによって負うであろう危険を示した時には自分の人生を捧げつつ、結婚の召し出しを神のみ旨に完全に委ねることを表します。



1934年8月
隆と緑の結婚式

彼女はすぐに気配りをする愛情深い妻と母として、日本の深刻な経済危機の時代の経済管理においても家庭を守り、支えます。家庭を持って間もなく、若い夫の給料がまだ低い時に、教師である彼女は授業を終えるとすぐに着替えて、文句も言わずに最も素朴な仕事をします。気晴らしにふけることなく、衣服を買わないのは、緑が休む暇なく、家族全員の靴下、シャツ、手袋、服、さらにはオーバーコートを手で縫うからです。夫の同僚が、先生は日中でも妻から抱きしめられていると感じるとコメントするほどです！彼女は晴れた日には畑で働き、それから縫い物や編み物をします。詳細：彼女は自然の美しさと内面から来るものを愛しているので、おしろいを決して使用しません（一度だけ、結婚式の朝、それを使用しました！）。また、子供たちが学校に行くときのためにお金を節約する方法を見つけます。

夫が自分の研究にまったく没頭し、家に帰っても安心して見ても彼女は愛情を込めて彼の世話をし、実際には家族全員の管理と子供たちの世話を引き受け、夫が自分の道を進めるようにします。



そのような時には、夢遊病者の助け手だったように思えたと言いますが、夫が科学論文を書き終わるとそれを読み、内容がわからなくても、それが仕事と夫の労苦の成果であるという事実そのものに感動するのです。緑がいなければ、隆は科学者、医者、そして父親になることはできなかつたでしょう。

結婚した二人は浦上地区を愛し、公的責任を負います。浦上地区女性会会長に就任すると、野草の料理法やズボンの縫い方を教え、若い女性たちを集めて生け花の稽古を行います。

彼女は、彼女が助け、教育しようとする近所の学生たちからも女性たちからも頼りになる人物だと見られています。戦時中には、防空壕を掘る方法、負傷者を救助する方法、爆撃後に畑を耕す方法をも教えました。疲れを知らない働き手であり、希望の重要な存在です。

1945年に永井が彼の職業のために放射線被曝によって起こった白血病の診断を受けたとき、神のみ旨に完全に委ね、すでに夫婦の絆に含まれている幸運と不運の受け入れを考えて、彼を慰めたのは緑です。

1945年8月8日、原爆の炸裂によって亡くなる前日、夫は仕事に出かけましたが、弁当を忘れたためすぐに戻ってきます。彼は彼女が十字架の前で泣いて自分の健康を祈っているのを見つけて、彼が彼女を見るのはこれが最後です。



1945年8月9日11:02に原子爆弾が炸裂します。夫（放射線研究所のコンクリートの壁で保護されて働いていた）と子供たち（家を離れ、安全のために両親によって疎開させられた）の両方が、核爆発のひどい瞬間に彼女の顔を見たと言います、まるで彼女が彼らに別れを告げ、彼らの世話をし続けることを保証したかったかのように。確かに、隆によって彼の著作に裏付けられているように、彼の妻の死後、自分の予後を知っていた白血病の父親でさえ、間もなく孤児になる運命にあった子供たちに対する共通の教育的課題を受け継ぎ、信じられないほどの父性を生きます。母親はよく蒔き、確かに彼ら全員を守り、導き続けました。

緑は日々、深い信仰をもって神との個人的な関係を目に見える形で生きていたため、隆の回心の道に同行することができました。彼女は、内面的な距離と彼女自身を完全に捧げることによって、すべての人に溢れる愛情を持って生きることを可能にする心の清らかさを生きました。彼女の時間、彼女が知っていること、彼女の善良さ、彼女の継続的な祈り、彼女の生涯など、彼女ができるすべてを捧げて生きたのです。そして彼女の死。やもめの隆が街全体と全世界にもたらす希望でさえ、成熟した実であり、父の計画に従って生きた彼らの間の交わりの遺産です。



隆が家の瓦礫の中の骨の残骸と一緒に見つけた緑のロザリオ



AMICI di
TAKASHI
e MIDORI
NAGAI